

海水浴客の選択行動に関する基礎的分析

一 習慣性形成を中心として

鳥取大学工学部 正 員 岡田 憲夫

鳥取大学工学部 正 員 小林 潔司

鳥取大学工学部 学生員 ○山中 明夫

1. はじめに 近年、観光・レクリエーション需要は急速に増大しつつあり、地方都市圏においても観光・レクリエーション開発の重要性が認識されるようになってきた。観光・レクリエーション行動は多様な行動特性を有しており、観光・レクリエーション開発の方針を検討するにあたって観光客の行動の把握は重要である。本研究では、「一度訪れたことがある」という過去の経験がレクリエーション活動の目的地選択に及ぼす影響に関して基礎的な分析を試みることとする。具体的には、鳥取県の海水浴場を対象に行ったアンケート調査結果に基づいて消費者の海水浴場の選択行動における習慣性形成の特性を数量化理論第Ⅱ類により明らかにすることとする。

2. 海水浴場選択行動におけるrevisiting特性について 海水浴場選択におけるrevisiting行動を、「一度ある海水浴場を訪れた海水浴客が、次回以降の海水浴場の選択において再び同じ海水浴場を選択する行動」と定義する。海水浴のようにレクリエーション性の強い余暇行動においては、現地で行なわれるレクリエーション活動の内容自体に魅力を感じる場合が少なくない。したがって、海水浴客が今回訪れた海水浴場に十分満足すれば、次回の海水浴において同じ海水浴場を選択するというrevisitingを行う可能性は非常に高いと考える。さらに、このような経験の履歴により海水浴場選択時に海水浴場の選択肢が過去に訪れたことがある海水浴場に限定されrevisitingが習慣化される可能性も高いと考える。このような海水浴場選択におけるrevisiting特性は、地元の自治体や民間の海水浴関連施設の経営主体が今後の海水浴場の整備を考えていく場合にとっても、重要な視点となりうると思われる。

3. アンケート調査について 鳥取地域の代表的な海水浴場である浦富海岸、白兔海岸、浜村海岸において海水浴客が最も集中すると考えられる7月26日（日）から8月2日（日）までの一週間を対象に、海水浴客を対象としてアンケート調査を実施した。その結果、浦富海岸、白兔海岸、浜村海岸の各海岸でそれぞれ504, 259, 302個のサンプルを得た。

4. 実証分析の結果 アンケート調査結果の単純集計よりつぎのことが判明した。

(1) 図-1は鳥取県外からの海水浴客に対して過去に同じ浜を訪れた経験の有無を調べた結果であるが、過去に同じ浜を訪れた経験を有する海水浴客の占める割合が高いことが判明した。これより海水浴場へのrevisitingがかなり頻繁に行われていることが判る。

(2) 図-2, 3は浦富海岸、浜村海岸の海水浴客がそれぞれ当該の海水浴場を選択したきっかけを示したものである。いずれの浜でも「知人の紹介による」という理由がもっとも多くなっている。また浦富海岸では「昔から知っていることによる」がつきに高い割合を示しているのに対して、浜村海岸では「パンフレットによる」が多くなっている。

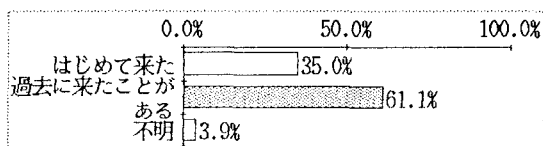


図-1 過去の履歴

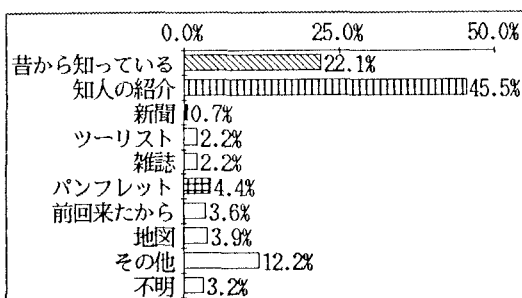


図-2 浦富海岸選択のきっかけ

る。すなわち、浦富海岸では知人の紹介といった人伝ての情報が海水浴場選択の主要なきっかけになっているが、浜村海岸では人伝ての情報だけでなく公的・私的活動主体によるPR努力がそれなりの効果をあげていることが判る。

(3) 浦富海岸・白兎海岸と浜村海岸では観光資源や宿泊施設の整備状況に明確な差異がある。浦富海岸・白兎海岸は「海水浴場」以外に魅力的な観光資源を有しておらず宿泊施設も民宿経営が中心となっている。一方、浜村海岸では、観光資源として「温泉」を有しており、宿泊施設も旅館経営が主体となっている。このような観光資源の差異が海水浴場の選択理由の差異となって現れていると考える。

つぎに、海水浴場の選択行動において習慣性が見出せるかどうかを検討するために、初めて海水浴場を訪れた宿泊客とrevisitingを行った海水浴客の間に海水浴場選択行動にどのような差異があるかを数量化理論第Ⅱ類により分析した。ここでは、選択行動における習慣が形成されているかどうかを海水浴場選択における代替的選択肢の有無により把握できると考え、外的基準として代替的選択肢の有無を取り上げた。浦富海岸を対象とした分析結果を表-1に示している。この表では、選択肢を有している場合にはカテゴリ数量が正の値になるように、そうでない場合には負の値を示すようになっている。浦富海岸では「過去に浜に来た経験の有無」のレンジが高く、またカテゴリスコアは過去に来た経験のあるものは負の値を示している。レンジの大きい要因としては居住地、海水浴場を知ったきっかけ、過去の経験の有無があげられる。すなわち、過去に来た経験を有したり、知人の紹介で訪れた海水浴客ほど海水浴場

場を選択にあたって代替的な選択肢を設けず、はじめから目的地を浦富海岸に限定するという特性が見られる。このような傾向は京阪神等の遠隔地の海水浴客に顕著であることが判明した。

5. まとめ 以上の分析結果より海水浴客の目的地選択においては、過去に同じ海水浴場に訪れたという過去の履歴が海水浴場の選択行動に重要な影響を及ぼしていることが明らかになった。また「人伝てによる」海水浴場の紹介の重要性が認識された。PRが重要な選択要因となっている浜村海岸でもrevisitingを確保する必要があると認められた。一度そこに訪れた海水浴客のその浜に対する印象が海水浴客の確保にとって重要であり、海水浴場が入浜客数を維持するためには、海水浴客のrevisiting行動を確保できるように各種の施設の整備を図ることが必要であると考えられる。

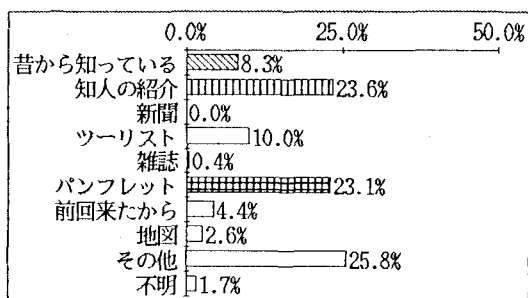


図-3 浜村海岸選択のきっかけ

表-1 数量化理論第Ⅱ類による計算結果

アイテム	カテゴリ	カテゴリ数量	レンジ	解相関係数
1. グループの種類	家族	13.74	26.60	0.103
	単独	-12.86		
2. 性別	男	-2.99	0.65	0.040
	女	3.66		
3. 年齢	20才以下	-8.26	54.04	0.217
	20才代	-1.58		
	30才代	19.91		
	40才以上	-34.13		
4. 居住地	大阪	-14.58	82.69	0.239
	姫路	19.31		
	岡山	24.04		
	奈良	40.84		
	京都	-41.85		
	広島	4.83		
	その他	-3.92		
5. アクセス手段	車	7.93	43.81	0.171
	バス	-35.88		
	列車	-24.80		
6. アクセス時間	2. 5時間以下	-29.69	59.74	0.277
	3. 0時間	-20.60		
	3. 5時間	-3.06		
	4. 0時間	30.05		
	4. 5時間	-17.31		
	5. 0時間	25.69		
7. 知ったきっかけ	5. 5時間以上	-18.19	96.81	0.266
	昔から	-13.87		
	知人の紹介	-17.05		
	新聞・雑誌	33.54		
	ツーリスト	22.00		
	パンフレット	39.27		
	前問	5.02		
	地図	-57.54		
	その他	21.45		
	はい	11.02		
8. 山陰地方以外の場所を考えたか	いいえ	-4.01	15.03	0.083
9. 山陰地方の他の場所を考えたか	はい	13.73	29.85	0.122
	いいえ	-7.12		
10. いきやすさを考えたか	はい	7.70	14.00	0.000
	いいえ	-6.30		
11. 過去に来た経験があるか	ない	44.14	69.70	0.377
	ある	-25.56		